

第12回 全国若者・ひきこもり in 東京
協同実践交流会

生きづらさに抗して、ともに生きる社会をつくる

大会趣旨

ひきこもりをはじめとする若者支援に関わる個人や団体が、交流と学びあいを通じて実践力とネットワークを育んでいくために、全国各地で実践交流会が開催されてきました。

そのなかで、若者の生きづらさの背景には、教育・医療・家族・就労・貧困問題などが複合化して存在しており、社会そのものが若者にとって生きづらいものになっていることを明らかにしてきました。今後、若者が生きやすく働きやすい社会をつくっていくにはどのような取り組みが必要なのか、立場・分野を越えて各地の実践を交流し議論していく必要があります。

今年度の東京大会は、文字通り、若者をめぐる課題を総合的に議論するテーブルづくりが目指されています。

東京大会実行委員長 太田 政男 (大東文化大学)

今回、全国若者・ひきこもり協同実践交流会が世田谷区の駒澤大学で開催されることを心より歓迎します。

世田谷区でも、2013年・平成25年に区に若者支援担当課を設置し中高生・若者たちの活動拠点として「野毛青少年交流センター」をひらいていき、生きづらさを抱える若者支援の一環として、ひきこもり支援の場「メルクマールせたがや」をオープンするなど次々と実現しています。

本交流会で全国の皆さんの活動・実践が結びあいより豊かな内容にふくらんでいくことを期待し、皆さんとお会いするのを楽しみにしています。

世田谷区長 保坂 展人

スケジュール

4日(1日目)

12:00 開場・受付開始
13:00 開会あいさつ・基調報告
13:50 全体シンポジウム
15:30 休憩
16:00 テーマ別分科会 I
18:00 終了
(別途、懇親会 検討中)

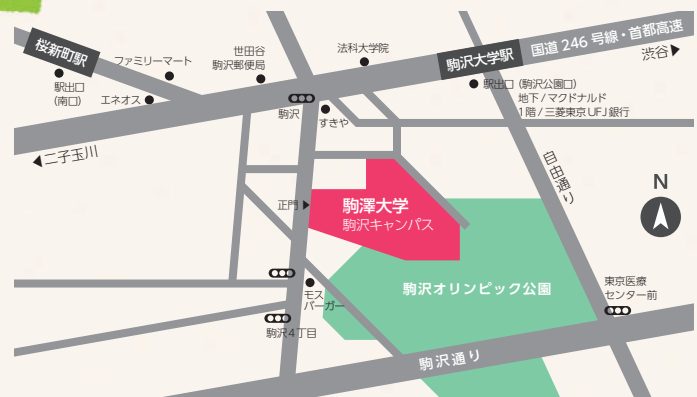
5日(2日目)

8:30 受付開始
9:30 テーマ別分科会 II
11:30 昼休憩
12:30 テーマ別分科会 III
14:30 休憩
14:45 終わりのつどい
16:00 終了 (別途、夜後祭 準備中)

この他にも、テーマ別分科会と並行してロビー企画(仮称)などを計画中です。スケジュール詳細はHPに随時更新していきます。

会場案内

駒澤大学 駒沢キャンパス 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1
東急田園都市線「駒沢大学」駅より徒歩約10分
(「駒沢大学」駅まで「渋谷」駅より約7分 正門からお入りください)



第12回 全国若者・ひきこもり

協同実践交流会 in 東京

生きづらさに抗して、ともに生きる社会をつくる

i 申し込みについて
ご参加には申し込みが必要です。メール、FAX、Webでの申し込み方法を準備しています。準備ができ次第、大会ホームページに掲載します。
大会ホームページアドレス
<http://www.jycforum.org/>



問い合わせ・連絡先
現地事務局 (NPO法人教育サポートセンター NIRE 内)
〒142-0053 東京都品川区中延 5-6-14-2F
Tel 070-1251-4394 (問い合わせ用)
Fax 03-3784-5609
Mail tky.wakamono@gmail.com
全国事務局
(NPO法人コミュニティワーク研究実践センター 月形事業所内)
〒061-0051 北海道樺戸郡月形町字本町 8 番地
Mail info@jycforum.org
HP <http://www.jycforum.org/>

2017 3.4 SAT 13:00 - 18:00 - 5 SUN 9:30 - 15:30
in 駒澤大学 駒沢キャンパス

参加費 ¥3,000 / 学生・若者 ¥1,000

■事前申し込み・お支払いをお願いします。2月20日締め切りです。■「学生・若者」は自己申告です。収入がないなど3,000円の支出が難しい方は若者料金でお申し込みください。年齢が若くても、収入のある方は「一般」枠でご参加をいただけると助かります。

主催 若者支援全国協同連絡会 (JYC フォーラム)
全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in 東京現地実行委員会
後援 厚生労働省 内閣府 東京都 東京都社会福祉協議会
世田谷区 駒澤大学

<http://www.jycforum.org/>

テーマ別分科会

8つのカテゴリーを置き、14のテーマ別分科会を設けています。それぞれのテーマごとに2日間にわたって実践報告や議論を展開していきます。また、カテゴリーごとに基調講演やシンポジウムなどを企画しています。

ともにはたらく

分科会5

「しごと」づくり

自然と共生し、社会資源の活用を通じた地域づくりにおいて新しい仕事が生み出されています。こうした働きがいのある人間らしい仕事の実践から、ともに生きる人と人の関係を結びなおすためのヒントを探ります。

コーディネーター

古村 伸宏 (労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会/東京)
楠野 晋一 (一般社団法人協同総合研究所/東京)

コメンテーター

大高 研道 (聖学院大学)

多様な「居場所」をつなぐ

分科会1

支援者の想い／若者のニーズ

「居場所」には「このような場をつくりたい」という支援者の想いと同時に、「このような場がほしい」という若者のニーズも存在します。この分科会では「居場所」を構成する両者の「期待」から、「居場所」がいかなる場であることを求められており、そうした期待に対していかなる場でありうるのか考えていきます。

コーディネーター

御旅屋 達 (東京大学)
井利 由利 (公益社団法人青少年健康センター(茗荷谷クラブ)/東京)

コメンテーター

原 未来 (滋賀県立大学)

いろいろな意味を込めて用いられる「居場所」について、その多様性を認め合いながら、その意義と課題を探ります。

分科会2

居場所で出会うジレンマ

理念や思いをもって関わっている居場所なのに、日々の運営や目の前の課題に追われて、現実と目指しているもの・理念とのすりあわせをする余裕がもてない。こうした実践課題の解消のために、この分科会では、それぞれの居場所が目指すもの・理念を確認しながら、現実に向き合っている運営上の諸課題の解決に向けた方策を議論し、理念・思いの実現につながる活動のあり方を考えていきたいと思えます。

コーディネーター

井口 啓太郎 (国立市公民館/東京)
阿比留 久美 (早稲田大学)

コメンテーター

野中 康寛 (社会福祉法人一妻会 妻の郷/和歌山)

生き心地のよい多世代共生を育む地域づくり

分科会7

地域の課題を仕事にする 若者の働き方・暮らし方

若者が持っている潜在的な力は、地域の課題と真正面から向き合い「はたらく」ことを通じて豊かに発揮されます。若者が学び、人間的に成長できる仕事を地域からつくり出すとはどういうことが、実践事例を通してその在り方を考えます。

コーディネーター

志波 早苗 (生活サポート生活協同組合・東京/東京)
中村 雄介 (NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝/大阪)

コメンテーター

川本 健太郎 (立正大学)

住まい・生活を視点として

ひきこもり・生活困窮者等の課題を、「家庭への支援」「一歩踏み出す住まいの支援」の両側面から考えます。

分科会3

ひきこもる家庭への支援

生活困窮支援が開始され、ひきこもりの相談機関は制度としても広がってきています。ここでは、改めてひきこもりの長期化・高齢化の背景を押さえるとともに、家庭へのアウトリーチ(訪問支援)のあり方について考えていきます。

コーディネーター

中川 健史 (NPO法人仕事工房がボロ/岐阜)

コメンテーター

川北 稔 (愛知教育大学)

シンポジウム

シンポジスト 湯浅 誠 (法政大学・社会活動家)
谷口 仁史 (NPO法人スチューデント・サポート・フェイス/佐賀)
川北 稔 (愛知教育大学)

分科会4

支援の場としての「住まい」を考える

支援機関の近所への引っ越し、共同生活、シェアハウスの事例を参考に、若者の状態(ひきこもり・ホームレス・児童養護施設等退所後・等々)に併せた場づくり、段階的な支援のあり方、ステップアップ・ラダー(階段)を考えていきます。

コーディネーター

佐藤 吉行 (NPO法人グッド/東京)
綿貫 公平 (NPO法人文化学習協同ネットワーク/東京)

コメンテーター

湯浅 誠 (社会活動家・法政大学)

官民でひらく若者支援

若者を取り巻く問題が政策課題となってようやく十年。草の根で担ってきた民間と自治体・国の施策の協同実践を検証します。

分科会9

自治体若者政策

さまざまな分野にまたがる各種制度をどのように組み合わせ、全体としての「若者政策」を構築していけるか。福祉、教育、雇用など専門機関の連携、官民の連携はどのように進んでいるのか。先進的・挑戦的な自治体の実践から学びます。

コーディネーター

篠原 健太郎 (労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会/東京)
佐藤 洋作 (NPO法人文化学習協同ネットワーク/東京)

コメンテーター

西岡 正次 (A'ワーク創造館/大阪)

シンポジウム

シンポジスト 宮本 みち子 (放送大学)
保坂 展人 (世田谷区長/東京)

コーディネーター

佐藤 洋作 (NPO法人文化学習協同ネットワーク/東京)

分科会10

若者自立挑戦プランから13年、 若者施策の現場での展開

この分科会では、若者課題への施策にこれまでどのような役割や機能が期待され、どのようなニーズが寄せられているのかなど、現場でのローカルな到達と課題、施策の意義を確認していきます。

コーディネーター

北川 裕士 (労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会/東京)
藤井 智 (NPO法人文化学習協同ネットワーク/東京)
山本 賢司 (認定NPO法人育て上げネット/東京)

コメンテーター

宮本 みち子 (放送大学)

若者支援と発達障害・精神障害

分科会11

支援現場で出会う若者たちが持つ「特性」をどう理解するか

若者支援の現場では、さまざまな対応や判断が求められます。ここでは、支援の入り口にあたる時期に焦点をあて、「どのように見立てをおこなっているのか」「本人・家族にどう伝えているか」など、各地での実践を交えて意見交換をおこないます。

コーディネーター

岡部 茜 (立命館大学大学院)
朴 明生 (NPO法人まひろ/東京)

コメンテーター

山本 耕平 (立命館大学)

発達障害や精神障害を持つ若者たちを包摂する協同実践はどうあるべきか、各地での取り組みを交えて考えます。

基調講演 山本 耕平 (立命館大学)

分科会12

様々な特性を持つ若者たちの「次の一歩」をどう支えるか

「次の一歩」を踏み出すことに若者自身が躊躇することも少なくありません。この分科会では、若者たちの「次の一歩」へつなげる活動の工夫と、地域ネットワークづくりについて、各地の実践を交えて意見交換をおこないます。

コーディネーター

中塚 史行 (NPO法人教育サポートセンターNIRE/東京)
永塚 賢二 (NPO法人ゆどうふ/東京)

コメンテーター

尾崎 ミオ (NPO法人東京都自閉症協会/東京)

不登校・フリースクールをめぐる行政と民間の連携

基調講演 古庄 健 (登校拒否・不登校問題全国連絡会/大阪)

分科会13

フリースクール・親の会と地域・行政のパートナーシップの構築に向けて

この分科会では、「教育機会確保法」の成立をきっかけとしてとらえ、不登校支援を実効性のあるものとし、子どもたちが安心して学び、休み、育つことのできる社会を実現するための官民の連携のあり方について議論します。

コーディネーター

古庄 健 (登校拒否・不登校問題全国連絡会/大阪)
松島 裕之 (NPO法人フリースクール全国ネットワーク/東京)
山本 尚由 (不登校・登校拒否を考える東京の会/東京)

コメンテーター

横井 敏郎 (北海道大学)

「若者の性」と支援の課題

分科会14

語られなかった性の課題に ともに向き合う

性のあり方、セクシュアリティは、一人ひとりみんな違います。その違いは、自分の存在や人との関係性、未来へとつながります。これまで若者支援の分野でクローズアップされなかったこのテーマについて、参加者でともに考え、今後の実践課題を展望しましょう。

コーディネーター

辻岡 秀夫 (NPO法人ゆどうふ/東京)
南出 吉祥 (岐阜大学)

コメンテーター

金子 由美子 ("人間と性"教育研究協議会、NPO法人さいたまユースサポートネット/埼玉)

全体シンポジウム

ともに学び合う実践交流から、 ともに創り出す協同実践に向けて

この集會では、「実践者同士の出会いと交流、学びの場」を軸に据えながら、その時々において直面している課題について、現場の実践に根ざした検討を進めてきました。そのなかで、「居場所/しごと/暮らし(住まい)」という実践領域の区分や、「(支援)から(協同実践)へ」という実践主体のスタンスなどを見出してきました。それらを踏まえつつ、本大会ではもう一歩踏み込んで、実践者同士が「学ぶ/交流する」というだけでなく、「創造する」という次元にもアプローチしてみたいと思います。制度・政策も含めて、私たちはどういった社会を展望していけるのか。「生きづらさに抗して、ともに生きる社会をつくる」というテーマに即しながら、議論し提起していきます。